

午前11時32分休憩

午後1時00分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

午前に引き続き市政一般質問を行います。

10番、小田昭人君。

○議員（10番 小田 昭人君） 会派、未来研究会の小田と申します。本日最後の質問者となりますが、しばらくの間、おつき合いを願いたいと思います。

それでは、通告に従い、大きく分けて4つの質問をさせていただきます。

1つ目は、看護師、介護福祉士、保健師等を目指す学生等に資格取得するまでの間、助成金等の新設はできないかの御質問でございます。

私は、対馬に、または豊玉高等学校を看護専門学校、または看護と福祉をミックスした専門学校を新設できないか、過去2回の質問をさせていただきました。なかなかハードルも高く、実現が困難と判断し、介護行政、福祉、市民の健康増進等々を推進するためには、人材育成、人材確保が不可欠で、急務であると同時に、このままの状態が続けば、対馬市の介護、福祉等の行政が麻痺することがここ数年で必ず来ると危機感を抱いております。

政府は、2019年10月に消費税率10%に引上げ、その財源で2020年度までに保育・教育無償化を図る予定であります。詳細については、今後、決定されるものと思います。

議会の初日に厚生常任委員長から所管事務調査報告がありましたように、10月に厚生常任委員会は特別養護老人ホーム日吉の里、いづはらⅠ・Ⅱを調査いたしました。三者三様、介護スタッフの確保に非常に頭を痛められたようであります。特に、日吉の里につきましては、看護師3名体制で運営がなされております。自分たちでは看護師を探し切らんということで、人材派遣会社に依頼をして、今、鹿児島と福岡から3名、これも期限つきだそうでございます。それで、人材派遣会社を通じるものですから、給料も高額だということをおられました。

また、特別養護老人ホームいづはらⅡは、入所50名、ショートステイ40名の合計90名で、平成29年4月1日に開所したわけですが、介護スタッフの不足から、入所、ショート合わせて30名前後となっていて、介護職員の確保が急務となっております。

このようなことから、看護師、介護福祉士、保健師等を目指す学生等に資格取得するまでの間、助成金等の新設はできないかお尋ねします。

2つ目の5年、10年後の対馬市の介護行政全般をどのように描かれているかも関連しますので、助成金の新設等とあわせて御答弁願います。

2つ目は、平成の納庵事業について、平成25年8月21日に議員全員協議会である説明があ

りました。議員からもいろいろと質問がありましたが、最終的には議員も納得したものと私は思っております。私も非常にすばらしい計画で、対馬の新産業として事業展開を期待しておりますが、平成25年8月21日の説明どおりに、対馬猪鹿活用促進事業が展開されていませんので、再度説明を求めるものであります。

次に、地域マネージャーの人事管理についてお尋ねします。

通常の業務につきましては言うまでもなく、対馬市事務決裁規定で各課の個別的な事務、決裁区分がる明記されていますが、地域マネージャーについてはどこにもうたわれていませんが、事務決裁規定にうたう必要はないかお尋ねします。

対馬市地域マネージャーの設置要綱によりますと、地域マネージャー業務の総括はしまづくり推進部が行うものとし、各地域の庶務についてはそれぞれの振興部が行うものとする、対馬市地域マネージャー設置要綱第7条でうたわれています。そして、現在は校区ごとにリーダー1名が配置され、担当マネージャーの業務を総括し、各所属課長等の勤務調整を図りながら、担当マネージャーを指揮・監督すると第3条で明記されています。

そこで、地域マネージャーとして活動する場合は誰が命令するのか、また、時間外手当等が発生するかどうかはわかりませんが、手当等の支出する場合はどの費目から支出がなされているのかをお尋ねをいたします。

最後に、LED照明についてお尋ねします。

私は、このことについても過去2回質問をさせていただきました。街路灯、防犯灯、漁港に設置してあります水銀灯等につきましては、平成22年度から徐々にLEDに取り替えられ、現在は水銀灯が若干残っていて、電柱の移動とか新設であろうかと思っています。よって、蛍光灯によります防犯灯、街路灯につきましては、既にLED照明になっているものと思っております。

平成22年度防犯灯が対馬市全体で4,634基、電気料は年間1,993万518円、1基当たり4,300円となっています。平成25年度は対馬市全体で1,658基増設されまして、今現在で6,292基で電気料が1,766万7,330円で1基当たり2,810円となっていて、22年度と比較しますと1基当たり1,490円も電気料が減額となっています。

また、修繕料は、平成22年度が対馬市でおよそ650万円、23年度がおよそ573万円、24年度がおよそ735万円、25年度がおよそ348万円となっていて、現在はほとんど修繕料は発生しないと伺っています。

そこで市長にお尋ねしますが、今後、LEDを市役所、学校等に計画されているかどうかお尋ねします。

以上、4件の質問をさせていただきます。場合によっては一問一答でよろしく申し上げます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 小田議員の御質問にお答えいたします。

初めに、助成金の新設についてでございますが、介護業務に従事される職員の確保につきましては、各施設において鋭意努力されているところでございますが、一部の施設では島外から職員の派遣が行われているという状況もございます。

また、施設に限らず、訪問介護等、在宅介護に従事されている訪問介護員、デイサービスなど、さまざまな介護職場、さらにはデイサービス事業所が行っている配食サービスなどにおいても、人材不足の状況から、在宅介護サービス利用者の皆様にも徐々に影響が出ているところでございます。

介護の現場における人材不足は慢性的で全国的な傾向であることも議員御承知のとおりでございます。そのような状況から、本市では、介護職のうちのホームヘルパーなどを対象に、介護職員初任者研修への助成を平成28年度より実施しているところでございます。

次に、介護施設で就労する職種に係る資格取得までを支援する制度新設の考えはないかとの質問でございますが、第2次対馬市総合計画に掲げました対馬っ子育英制度について、従来の貸付型でなく、給付型による制度構築の可能性を探り、必要な財源を試算いたしましたところ、現実的に難しく、原資の確保が大きな課題となりました。

現状、市が実施しています奨学金は、対馬市医学奨学資金貸与制度と、酒井豊育英資金貸与基金制度がございまして、このうち医学奨学資金貸与制度につきましては、資格取得後、市内に勤務した場合、返還の免除制度がございまして、

また、長崎県病院企業団においても、医療技術修学資金制度が整備されておりまして、市ではこの修学資金制度の運営に対し、奨学生の数に応じた負担金を毎年度支出している状況でございます。

今後は企業団の修学資金制度の活用状況を踏まえ、現行の市奨学資金制度の拡充、また、一体化も視野に、総合的に検討を行い、早期の制度構築に努めてまいります。

御指摘のありました介護職員の人材不足でございますが、介護福祉士につきましては、短期大学、専門学校の教育課程を修了しての資格取得に対する奨学金は酒井豊育英資金が御利用になれる状況でございます。

また、施設における介護職員は、必ずしも介護福祉士でなければならないというわけではなく、初任者研修受講者登録者のほか、無資格でございまして就業できる状況でございます。

人員確保が難しい問題といたしましては、深夜勤務を含めた勤務体系に対する対価であるとか、利用者のコミュニケーションの難しさ等、さまざまな問題が絡み合っているものと推測しているところであります。

市といたしましては、このような課題に対し、介護現場の改善がなされるよう、関係機関と協議を進めてまいりたいと考えているところでございます。

議員が懸念されます5年、10年先の介護行政の絵図面につきましては、まず、高齢化率においては、平成29年度は34.78%でございますが、国立社会保障人口問題研究会の推計では、2025年41.4%、2035年は43.7%の数字が示されており、また、介護施設の増床につきましても、介護保険料の負担増に大きく影響いたしますので、大変厳しい状況ではあると推察いたしております。

市といたしましては、施設介護だけの介護保険制度の利用に捉われることなく、ボランティア、NPO等の活用による介護予防等の施策を取り組みながら、自助、共助、あるいは公助の考え方の中で、地域助け合いの力を蓄えていきたいというふうに考えております。

次に、平成の訥庵事業についてでございますが、この事業の概略を簡潔に御説明申し上げます。

計画を立案しました平成25年度当時の現状は、被害対策、捕獲対策は積極的に実施しておりますが、被害の軽減には至っておらず、平成24年度の農作物被害額は3,600万円まで増加しておりました。また、捕獲個体の利活用についても、ほとんどが埋設処理されている状況でありました。

このような現状と課題を考察し、戦略的な有害鳥獣対策を段階的に実施していくために、平成25年度から平成27年度の3カ年の事業として計画し、取り組んでまいりました。

実績としましては、防護対策として設置した防護柵の現況調査、捕獲対策としてGPS機能つきカメラによるわな設置個所と捕獲状況の把握ができ、このデータをもとに、各地域における対策のあり方を市民とともに考え、地区捕獲隊による地区主体の被害対策を実施できるようになっております。被害額も右肩下がりです。昨年では840万円まで減少しております。

利活用に関しましては、大阪府立大学との連携協定により、ガイドラインを作成し、肉の検査において、衛生的な解体が実証されております。

また、加工品の製造や皮を使ったレザークラフト教室などにも取り組み、島内の小中学校での給食や事業による普及啓発活動を初め、ふるさと納税の返礼品として活用を行ってまいりました。

最終的な計画としまして、鳥獣対策総合センターの建設を検討することとしておりましたが、平成28年には民間の処理施設が規模を拡大し、取り組まれておりますし、今日の現状を見極めながら、慎重に協議を進め、検討してまいりたいと考えております。

次に、地域マネージャーの人事管理についてお答えいたします。

地域マネージャーの活動に際しては、対馬市地域マネージャー設置要綱第3条において、マネージャーは校区リーダーの命を受けて業務を処理すると規定しております。マネージャーとしての活動は、通常の勤務時間に行うケースは少なく、その大半が休日や夜間の活動であります。

通常の勤務時間に本来業務を外れ、マネージャー活動を行う際には、マネージャーは校区リーダーに報告し、校区リーダーから本来業務の所属長へ連絡を入れ、活動を行うこととなります。休日や夜間に活動を行う際には、校区リーダーに連絡をし、活動を行いますが、いずれも活動後には活動報告を校区リーダーに行うこととしております。

なお、休日及び夜間の活動に当たっては、フレックスタイムや振りかえでの対応を基本としておりますが、それらが可能でない場合には時間外勤務手当を支出している状況です。その際の支出費目は総務費、一般管理費内の地域マネージャー事業費にて支出をしているところでございます。参考までに平成28年度の決算額は76万6,361円となっております。

地域マネージャー制度につきましては、昨年の9月、定例会の折に、黒田議員からの質問に当たり、今後とも地域と行政をつなぐパイプ役として継続運用していきたいと答弁をさせていただいたところではございますが、現在、来る平成30年度から体制も気持ちも新たに再スタートできるよう、担当課におきまして、リニューアルの準備を進めているところでございますので、引き続き、議員皆様を初め、市民の皆様方の御理解と御協力をお願いする次第であります。

最後に、公共施設におけるLED化の計画についてでございます。

LED照明は、一般的に低消費電力で長寿命と言われており、現在の照明器具の主力光源となっております。また、CO<sub>2</sub>の削減に貢献でき、ひいては地球温暖化の抑制につながるものでありと言われております。

対馬市においても、低炭素機器導入補助金を用意し、事業所等にLED照明の導入促進を図っているところでございます。

本市の公共施設のLED化についてでございますが、市内各所に配置している防犯灯において、平成24年度に国の補助金を活用し、市内全ての防犯灯をLED化し、その後の防犯灯も全てLED照明を整備している状況でございます。

その効果といたしましては、年間の維持費が平成23年度と28年度を比較しますと約600万円、累計で算出しますと2,100万円の経費削減につながっております。他の公共施設につきましては、現在、照明機器等が故障した場合にはLED灯の導入を考慮しながら、順次対応しているところでございます。

また、先ほども市役所や学校等の計画はどうしているかということでもございましたが、今後につきましては、公共施設等総合管理計画の中の管理運営の効率化とコスト削減の方針に基づき、必要と思われる施設から順次導入をし、コスト削減を図りたいと考えておりますので、御理解いただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 10番、小田昭人君。

○議員（10番 小田 昭人君） 最初の質問の介護行政でございますけど、いつはら特養Ⅱが各家庭にこんなチラシを、現地でお仕事説明会と、11月25日に1回目があっておりまして、私、電話で聞きましたら、職種は聞いておりませんが、介護職なのか、事務職なのか、看護師なのか、11名の方が来られたそうでございます。そして、2回目が今度の日曜日、12月17日にある予定になっております。

それから、対馬新聞で、私、広告見て、これ11月20日なんですけど、居住したいまちナンバーワンの糸島と一緒に働きませんか。介護職員大募集と、福岡県から対馬市の新聞にこのような広告が載っておられました。市長が今言われましたように、全国的にやはり介護スタッフは足りないのかなと、このように思った次第でございます。

それから、対馬市の中学校卒業者が現在320名程度、これは10年間は横ばいだという数字が出ております。そして、そのうち対馬の3つの高校に進学される方が二百二、三十名、よって、100名ぐらいが中学校卒業してそのまま稼業を継ぐのか、あるいは島外の普通高等学校、専門学校、中でも鹿児島島の介護専門学校にかなり対馬から行っておられるんじゃないかと。もし教育委員会がこのような数字をつかんでおられれば、後でお聞きしたいと思います。ここは、私が知っているところでは鳳凰高等学校、あるいは神村学園、専門学校ですから5年間です。それは約束事がありまして、資格取得後、月額大体、国立の場合は授業料が5万です。だから、年間60万の5年間ですから、300万、これは免除しますので、資格取得後、県が指定した病院に5年間働いてください。それが条件でございます。10年もなれば、やはり第2のふるさとなるでしょう。そしてまた、女性の場合は、もう結婚適齢期にもなりますので、なかなか対馬には帰ってこないんじゃないかと、私はそう思っております。

それから、26年10月に中学生、保護者を対象に、意識調査を行っていただきました。生徒871に対して回収率が93.25%、保護者738人に対しまして回収率79.1%と、非常に関心を持っておられました。後でまたこの意識調査は精査をしていただきたいと思っております。

それから、酒井豊育英基金につきましては、一応貸与型ですので、将来は返さないといけないと、こういう制度で、借りられる方も低所得者とか、この条件があるようでございます。

私立になりますと、月額12万5,000円です、看護、だから年間150万です。こういう数字になろうかと思っております。さらに、保健師は、専門学校であれば3年で准看の大体免許です。高校を卒業しないと正看護師の免許は取得できませんので、2年間を正看として最短5年間、普通高校の場合は3年高校行って正看取るにはさらに4年間要るわけです。保健師はさらに正看取ってから2年間です。だから、普通高校、そして正看目指すなら7年、保健師はさらに2年プラス、9年かかるわけです。やはり、保護者の負担もかなりのものかと思っております。

それから、2番目の平成の訥庵事業につきましては、今、説明がありましたように、当初の計

画と若干、総合センターも民間が拡大したから、今建てていないんだと。今、4名体制ですか。多分、職員入れて4名体制で運営がなされているものと思っております。

28年3月に対馬市猪鹿処理の設置及び管理に関する条例は、これは議会で否決をされ。その後、28年12月に、また同じ条例で、当初の条例では猪鹿を持ち込んで解体すれば、手数料として幾らいただきますよと。そして、28年12月の条例では、いわゆる体験すれば、1時間当たり使用料をいただきますよということで、10月の決算報告では体験型の観光者は誰も今のところ来てないという、こういう説明でございました。

市長は、条例の制定の目的について、今回の加工施設の条例につきましては、現在、国境離島新法の中でも滞在型観光の促進ということで体験型の観光が強く求められているということをお説明なされました。このような観点から、対馬でも猪鹿の解体を体験され、そしてまたおいしく食べていただくことで、今回、このような上程をさせていただいておりますので、どうかよろしくお願いたしますと、こういう発言をされました。そして、10月の決算委員会で、市長に、韓国なり、日本の旅行業者にツアーの体験のお願いは行かれましたか言うたら、行っていないということでございますので、今後、この条例を生かすためにも、市長は対馬市のトップリーダーとして、私は韓国なり対馬の旅行業者にツアーの体験をお願いすべきだと思いますが、どのように考えておられるか御答弁願います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 保健師、看護師の件を一連で、（発言する者あり）もういいですか。はい。

それでは、体験型観光施設の関係からちょっと御答弁申し上げたいと思いますけども、この条例制定の際に、確かに私は今後の有害鳥獣対策においては、ただ捕獲するだけじゃなくて、利活用することが重要だというような観点から、体験型の加工施設としてお願いをしたいということでお話をさせていただきました。その際、また、ことしの10月の決算審査のときにも、議員のほうから、その実態、そして実績はというような質問がありましたけども、実際にあの加志の施設での体験型の加工はあっていないということではございますけども、ただ、加志ではあってはおりませんが、ただ、ほかの公民館とか学校等で、この加志の施設である程度加工したイノシシ、シカを体験型の勉強会として、中学生のほうに指導したということは、担当部のほうからお聞きしているところでございます。

そして、今後、この体験型の加工を韓国等へ要望に行くかということではございますけども、韓国のほうが、ちょっと私もそこら辺が、どこら辺までそういったことで必要性があるのかなということは、もう少し勉強をさせていただきたいというふうに思いますが、ただ、この対馬に見えてありますお客さんにしましては、できたらそういったところもありますよということで、ぜひ

紹介をしてみたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 10番、小田昭人君。

○議員（10番 小田 昭人君） それでは、25年8月の説明どおりにはっていないわけですが、鳥獣対策総合センターは、まだ建てるか建てないかは現在検討中だということになるわけですね。わかりました。

ただ、計画の段階では、2年度、2カ年は試験的にとるんだと、100頭、イノシシ合わせて。これは議員からも民間圧迫にならんかと、こういう質問でございました。今の体制で、道路事情は四、五年後はよくなるでしょうけど、あの狭い施設で、私は絶対に新産業の発展は出てこない、このように思っております。そのまま何年間ぐらい続けられる予定なのか。

それと、行政報告でありましたように、指定管理者を募ったけど1社だったと。やっぱ要件が整わなかったんでしょうね。その中身の説明がよければ、なぜ指定管理に至らなかったのか、説明をお願いしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに、おっしゃられるように、この加志の施設は面積的にも確かに狭いということもございますけども、ただ、ここで解体、加工したイノシシ、シカが大阪府立大学の審査によっても、衛生的で立派な加工品になっているというような認証はいただいたところでございますので、これを踏まえまして、市内に先見として広めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

そして、2点目の指定管理の関係で、なぜ指定管理者候補との協定に至らなかったのかという件につきましては、担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 農林水産部長、西村圭司君。

○農林水産部長（西村 圭司君） 指定管理につきましては、3回ほど指定管理委員会を開きまして、最終は平成29年11月8日に候補者からプレゼンをしていただき、指定管理委員会の中で慎重に検討させていただきました。その結果、結果として不採択になったわけですが、一番大きな要因については、向こうから提案があった指定管理料の問題で、うちの考えるところと合わずに不採択になったということで考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 10番、小田昭人君。

○議員（10番 小田 昭人君） 指定管理については、金銭的な面で合わなかったということで指定管理しなかったと、こういう解釈でよろしいですね。

それから、地域マネージャーにつきましては、私はあんまり関心を持っていません。というのも、校区ごとに美津島が誰がリーダーになっておられるのか、あるいはサブリーダーになってお



られるのか、私にわからないのが悪いのか、どうかわかりませんが、ただ、1回、大船越の平瀬原の防火水槽、地域マネージャーでやるよということで、私、もう三、四年前ですか、現地に行きました。そしたら、地域の人は誰もおらず、業者が2人やっておられました。後で聞きますと、請け負ったと。だから、後で伝票操作をうまくいかにやったんでしょうね。二、三十万で請け負いましたと、こういうことでございます。

そして、私にそのころの地域マネージャーに、いつ会合を持って、いつ決定したのかということをお聞きしましたが、何の回答もありませんでした。

それから、LEDにつきましては、計画があるようでございますので、私は提案したいのは、まず学校だと思います。教育長と市長、相談されて、モデル校、中学校1校でも、小学校1校でも指定して、LED照明に替えられて、過去の決算額、電気料は出とるわけですから、学校ごとに。それを1年間統計とられて、行政改革も必要でしょう。私は財政改革も必要じゃないかと思っております。近いうち閉鎖になるとかというような学校のモデルはやめられて、永遠に残るようなところを教育長と相談されて、そしてLED化、カバーといいますか、カバーはそのままでいいそうです。蛍光灯のカバーで。ただ、配線をLEDの状態にするのを、それも管の中からされるようでございますので、ぜひ、市役所あたりも適当でしょうけど、24時間と申しますか、消防署あたりも24時間ですけど、学校もかなりの時間、消灯がありませんので、どうでしょうか、具体的に取扱う予定はないかどうかお尋ねをいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどお答弁をさせていただきましたけども、総合管理計画の中で順次取扱ってまいりたいという答弁をさせていただきました。

今、議員のほうからは、どこか学校を1校、モデル校としてはどうかという御提案でございますので、このことにつきましては、また、教育委員会部局のほうと協議等を進めさせていただきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 10番、小田昭人君。

○議員（10番 小田 昭人君） 質問は飛び飛びになりますけど、対馬の猪鹿活用促進事業、予算ベースで申しますと、25年度から28年度、4カ年で1億3,000万ぐらい使っております。この費用対効果をもう一度検証されて、私は加志のあそこは1日も早い閉鎖を、従業員がおりますから、こういう言葉が適当であるかわかりませんが、費用対効果を考えた場合は、やはり中央に移すなら移して、対馬の新たな産業を見出していきたいと思っております。

民間の肩を持つわけではありませんけど、民間業者は既に島外流通をいたしておりまして、産業です、まさに対馬の産業として活躍をなされておられます。市役所も胸襟を開いて、この民間業者と対馬のイノシシ、シカをどうするか、真剣に考えていただければ幸いかと思います。

以上で8分ほど時間がありますけど、これで私の質問は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、小田昭人君の一般質問は終わりました。

---

○議長（小川 廣康君） 以上で本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

あすは、定刻から本日に引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでございました。

午後1時43分散会

---